

化学抄録誌におけるタイム・ラグの調査
A Statistical Survey of Time Lags in Chemical
Abstracting Journals

坂井伊都子
Itsuko Sakai

Résumé

To play an important role for research activities in the field of science and technology, where current information is always required, abstracting services must be as speedy as possible. In this article the writer tried to make a statistical examination of time lags in abstracting services. For this purpose, the following 4 chemical journals were selected: *Journal of the American Chemical Society*; *Chemische Berichte*; *Zhurnal obshchei khimii*; *Bulletin de la Société Chimique de France*. The numbers issued in January, 1964, of each journal was examined to see how many of its articles and when they were abstracted in the following 4 abstracting journals: *Chemical abstracts*; *Chemisches Zentralblatt*; *Referativnyi zhurnal, khimiya*; *Bulletin signalétique*.

The results are shown in Tables 1-4. Table 5 indicates the percentage of articles being abstracted by each abstracting journal. *Chemische Berichte* shows the highest percentage suggesting its importance. Table 6 shows, under each chemical journal, the average time lag in each abstracting journal. The average time lag in *Chemical abstracts* is 4 months, much shorter than the others, suggesting its dominant services.

(1967 graduate from Japan Library School)

- I. 調査の目的
- II. 調査の方法
- III. Tools の選定
- IV. Tools の説明
- V. 調査結果の分析

I. 調査の目的

今日、化学界に限らず、広く科学技術の研究活動における抄録の果たす役割は、非常に大きな比重を占めているといわれる。特にアメリカ化学会の *Chemical abstracts* の世界の科学界に対する貢献は絶大なるものといえよう。適及的な探索の場合のみならず、ある程度カレントなものでも、専門分野、地域性、使用言語(英語)等の点から、*Chemical abstracts* を使用することは、常識とさえなっている。

特に、科学技術の分野においては、その情報が、常にカレントなもの でなければならぬことは、いうまでもないことであり、このことは、当然、二次資料の核心をなす抄録や索引類にも当てはめていえることである。

そこで、いわゆる報知的抄録といわれる抄録誌、或は、指示的といわれながらも、かなり報知的な色彩の濃いと思われる抄録誌を取り挙げ、*Chemical abstracts* を中心に、化学分野における他の抄録誌との比較検討を、time lag を中心に行い、抄録誌の持つ1つの重要な要素である速報性の現状を調査し、その結果を分析することによって、各々の抄録誌の特徴を現わしてみようと試みるものである。

II. 調査の方法

各々の抄録誌について、ある雑誌に発表された論文が、各々どのように現われて来るかを、実際に抄録誌を引いて調査する。この場合、雑誌も数種とり挙げ、各々を交差させて引いてみる。

つまり、IVで述べる各雑誌の総論文数220について、各抄録誌を著者名の索引で引き、抄録文の実物に当ってその所在を確かめ、論文が発表された日付と、その論文の抄録が発行される日付を記録して、time lag を出す。

この場合、*Journal of the American Chemical Society* (vol. 86, no. 2) と、*Zhurnal Obshchei, khimii* (vol. 97, no. 1.) に載っている、Communications to the Editor の形式の論文が、各々に、8, 24, 7 論文あったが、他の2つの雑誌には、この形式の論文が載っていないので、調査の対象には入れないことにした。

III. Tools の選定

比較検討するということから、抄録誌、雑誌論文の選定にあたっては、比較の対象となり得る要素を考慮すべきである。

抄録誌の場合、*Chemical abstracts* を中心にということから、*Chemical abstracts* の持つ要素を充分考慮して、選定しなければならない。つまり、その条件として考えられるのは、その国を代表するようなもので、化学の分野を含むものということである。となると、やはり、科学技術文献、特に雑誌を多く発行している国の抄録誌を取り挙げるのが妥当であろうし、それ相応の結果が出て来るものと見込んで、アメリカの *Chemical abstracts* の他に、ドイツ、ソ連、フランスの各国から、次の抄録誌を選ぶことにした。

Chemisches Zentralblatt
Referativnyi zhurnal, khimii
Bulletin signalétique, 7-8

その国を代表するという意味では、確かではあるが、種々の細かい点、例えば、専門主題分野の傾向、刊行頻度、年間抄録数、抄録の種類、価格等では、それぞれ相違があるので、全く同じ条件の下での比較は不可能であるが、たとえ、他のどの抄録誌を選んでも、この選択以上の相違があると思われる。各抄録誌については、次のIV, Bで説明をつけ加えることにする。

雑誌の選定に当っては、比較検討する抄録誌を4ヶ国から選んだので、やはり、雑誌も同じ4ヶ国から出版されているものということの基本条件として、次の3つの要素を考慮に入れて選定した。

- (1) 一般的な化学を扱った雑誌であること。あまり細かい専門分野の雑誌は、特殊すぎて、一般的な傾向をみることが出来ない。
- (2) 刊行頻度が、同程度の雑誌であること。月刊、もしくは、半月刊程度にする。
- (3) 比較の対象として選定した4種の抄録誌に必ず索引、抄録されている雑誌であること。

これらの条件を考え合わせて、次の4種の雑誌を選んだ。(アメリカ、ドイツ、ソ連、フランスの順)

Journal of the American Chemical Society
Chemische Berichte
Zhurnal obshchei, khimii
Bulletin de la Société chimique de France

Time lag に焦点を当てた調査であるので、この場合には、各雑誌の発行時期を、出来る限り一定の時限に揃えることが必要である。これに関しては、極端に古い発行、或は、調査を始める数ヶ月前の発行といった新しい時期にしないという程度で、古くもなく、新しくもない、調査の対象として適当に引き易い時期を考えて、

1964年1月発行の分に揃えた。

- Journal of the American Chemical Society*
Vol. 86, no. 1—1964, 1月5日 25 論文
Vol. 86, no. 2—1964, 1月20日 37 "
- Chemische Berichte*
Vol. 97, no. 1—1964, 1月3日 47 "
- Zhurnal obshchei, khimii*
Vol. 34, no. 1—1964, 1月14日 77 "
- Bulletin de la Société chimique de France*
fascicule 1—1964, 1月 34 "

IV. Tools の説明

A. 雑誌

1. *Journal of the American Chemical Society*¹⁾

1879年の創刊。*Chemical abstracts* と同じアメリカ化学会の発行。半月刊で出版される。純粋化学に貢献する世界で最も重要な雑誌の1つである。

2. *Chemische Berichte*^{2), 3)}

1868年の創刊。ドイツ化学会の発行。月刊で出版される。*Berichte der deutschen chemischer Gesellschaft* (これは、1845年、77巻11/12号を以て、出版を中止した)の後を受け継ぎ、1947年から、*Chemische Berichte* と改名して発行が復活した。有機化学を主に、化学各部門にわたる。

3. *Zhurnal obshchei, khimii* (英語名では、*Journal of general chemistry*)⁴⁾

1930年の創刊。月刊で出版される。*Journal of the Russian Physical-Chemical Society* の化学の部門と、*Khimicheskii zhurnal* の A シリーズを受け継いだもの。ロシア語の研究論文や、重要論文を知る上で、大切な雑誌である。

4. *Bulletin de la Société chimique de France*⁵⁾

1858年の創刊。月刊で出版される。純粋化学に貢献する重要な化学雑誌。1863年に、この雑誌が初めて抄録を含み、1945年までに、多くの抄録を出版した。

B. 抄録誌

1. *Chemical abstracts (CA)*⁶⁻⁹⁾

1907年、アメリカ化学会の創刊である。隔週刊で発行され、1963年現在、約167,000の指示的、報知的な抄録を行っている。生化学、化学工業をも含めた化学の全分野を、詳細かつ網羅的にカバーし、最も広範囲に利用さ

れている抄録サービスである。約9,000種以上の雑誌が、体系的にカバーされている。

抄録の内容は、原則として、報知的な抄録である。CAの編集方針としては、必要なすべての新しい資料を、正確に、漏れなく抄録し、原文の内容に批判を加えることなく、そのままを忠実に、また索引を作り易いように、記載することになっている。

CAの有効性は、抄録が報知的であることのみによるのではなく、その周到な索引に負うところが多い。CAの事業では、労力の半分が、索引作成に払われるといわれる。CAでは、次の7種の索引を作成している。

(1) Subject index, (2) Author index, (3) Formula index, (4) Numerical patent index (1958~), (5) Index of ring system, (6) Patent concordance index (1963~), (7) Keyword index (1963~)

2. *Chemisches Zentralblatt (CZ)*¹⁰⁻¹³⁾

大変に古い抄録雑誌で、創刊は、1830年である。数々の変遷を経て、第2次大戦後、1945年にはその発行を一時停止したが、1945年~1950年には、東西両ドイツから同じ名称で復刊され、1959年以後は、各学会の協力により、合併して発行されるようになった。

週刊で、約10万の報知的抄録が年間に出される。索引は、1897年から5年間索引が作られている。また、著者、件名、分子式、特許に対しては、年間の索引がある。この抄録誌は、化学的な記事に限るが、古くからの長い期間をカバーしている点で価値があり、場合によってはCAよりも詳しく抄録されていることもある。

3. *Referativnyi zhurnal, khimiya (RZ)*¹⁴⁻¹⁶⁾

Referativnyi zhurnal のうちの化学部門の抄録誌である。*Referativnyi zhurnal* は、ソ連の科学アカデミーの科学情報研究所 (Institute of Scientific Information) から出版されている抄録誌で、半月刊で発行される。現在、54の大分冊、および120の小分冊として刊行され、事項索引のない分冊が多く、内容は分類項目毎に、多数の報知的抄録が配置されている。年刊の事項索引のあるシリーズと、そうでないのがあるが、化学のように索引のついているものでも、CAに比べれば、非常に簡単なものである。

その1部門であるこの抄録誌は、やはり半月刊で、世界中の文献から、年間に約7~14万の指示的抄録を出版する。抄録対象は、定期刊物、会議資料、特許、単行本を含む。勿論、ソビエトの文献の比重が大きい。

化学抄録誌におけるタイム・ラグの調査

索引は、各号毎に著者索引、年間に、著者、件名、特許、分子式の各索引が出ている。

4. *Bulletin signalétique* 7-8, *chimie* (BS)^{17), 18)}

これは、フランスの国立科学研究センター (Centre National de la Recherche Scientifique) が発行する網羅的抄録誌 *Bulletin signalétique* の1部門に属するものである。創刊は1940年で、最初は *Bulletin analytique* と呼ばれていた。1960年までは、2部に分かれて刊行されていたが、1961年以降は、分野も増えて、22分冊に分かれて月刊で発行されている。この抄録誌は、基礎科学に重点を置き、また、理工学のみでなく、生物学、病理学、さらに人文科学まで含んでいる。内容は指示的抄録で、分類により排列してある。年刊で件名索引と著者索引が発行される。

このうち、7と8の部門が化学で、そのうちの7 (Chimie I) は、一般、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学を含み、16分類に分かれている。8部門は、応用化学、冶金学を含み、2分類に分かれている。1963年現在では、7部門で、世界中の文献から年間約3万3千の指示的抄録を、8部門で約2万の指示的抄録を出す。内容は典型的な指示的抄録で、各部門毎に2段階の詳細な細分類に分かれていて、1つの細分類中の記事数はあまり多くなく、事項索引を持たないこの抄録誌の検索は、この細分された配置によって行うものである。毎号に、

著者索引、年間に著者、件名索引が出る。収録の範囲は、全世界的ではあるが、フランスの文献を多く含むことは勿論である。

V. 調査結果の分析

この調査の目的は、原論文の発表と、それが抄録となって現われて来るまでの時間的なずれ——time lag を分析することにあるのであって、実際には、各抄録誌に当って、抄録の所在を確かめたのではあるが、各論文がどのように抄録となって発行されているか、例えば、詳しさ、長さ、引き易さということには触れないことにする。

各抄録誌、各雑誌は刊行頻度を異にし、雑誌も、必ずしも同じ日に発行されているわけではなく、長ければ1ヶ月のずれが出て来るわけで、これらを、全く同じ条件の下で比較することは、至って困難なことと思われる。特にフランスの場合、抄録誌、雑誌共に発行日が不明である。雑誌の場合、1964年1月発行ということだけで、抄録誌に至っては、巻と号だけである。発行が月刊ということから、no. 6 は6月発行だろうという判断しか出来ず、しかも、この判断が必ずしも正しいという根拠はないといった心細い状態ではあるが、一応、no. 6 は6月発行という推定の下で分析することにする。

A. 抄録誌に現われた状況分析

1. *Chemical abstracts* (vol. 60, 1964)

第1表 CA における代表的化学雑誌の収録状況とその time lag

CA		JACS (vol. 86, no. 1)		JACS (vol. 86, no. 2)		CB (vol. 97, no. 1)		ZOK (vol. 34, no. 1)		BSC de F (fascicule 1)	
Vol. no.	Pub. date	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%
60. 4	'64. 2.17	14	56	0	0	0	0	0	0	0	0
5	3.2	6	24	32	87	0	0	0	0	0	0
6	.16	2	8	3	8	36	77	0	0	0	0
7	.30	1	4	2	5	3	6	0	0	0	0
8	4.13	0	0			6	13	0	0	8	23
9	.27	1	4			1	2	57	74	13	38
10	5.11	1	4			1	2	5	6	5	15
11	.25							7	10	3	9
12	6.8							3	3	0	0
13	.22							1	1	3	9
Total		25	100	37	100	47	100	73	94	32	94

(注) CA*Chemical abstracts*
 CB*Chemische Berichte*
 ZOK*Zhurnal obshchei khimii*
 Pub. date抄録誌の発行年月日

JACS*Journal of the American Chemical Society*
 BSCdeF*Bulletin de la Société chimique de France*
 No. of articles ...論文数

第 2 表 CZ における代表的化学雑誌の収録状況とその time lag

C Z		J A C S (vol. 86, no. 1)		J A C S (vol. 86, no. 2)		C B (vol. 97, no. 1)		Z O K (vol. 94, no. 1)		B S C de F (fascicule 1)	
Vol. no.	Pub. date		%		%		%		%		%
135. 14	'64. 4.8					1	2			1	3
^{25/26}	6.24										
27	7.1	1	4			1	2				
28	.8					1	2				
30	.22	1	4								
31	.29					1	2				
33	8.12					1	2				
34	.19	1	4								
35	.26			1	2.6						
36	9.2			6	15.6	1	2				
37	.9										
40	.30									1	3
42	10.14					2	4			3	9
43	.21	1	4			1	2				
44	.28	2	8								
45	11.4			2	5.2						
46	.11									1	3
47	.18									1	3
48	.25									2	6
49	12.2									1	3
50	.9					2	4				
Total		6	24	9	23.4	11	22			10	30
136. 1	'65. 1.6			2	5.5						
2	.13									2	6
3	.20									2	6
6	2.10							2	3		
10	3.10			1	2.75						
11	.17									1	3
14	4.7	2	8	1	2.75						
15	.14					2	4				
17	.28					1	2			2	6
21	5.26										
24	6.16			1	2.75						
34	8.18							1	1.5		
37	9.8			1	2.75						
38	.15			1	2.75						
41	10.6					1	2				
42	.13									1	3
43	.20			1	2.75						
46	11.10					1	2	1	1.5	1	1.5
49	12.1							4	6	4	6
50	.8							2	3	2	3
51	.15							1	1.5	1	1.5
Total		2	8	8	22.0	5	10	11	16.5	16	36
Grand Total		8	32	17	45.4	16	32	11	16.5	26	66

化学抄録誌におけるタイム・ラグの調査

第1表は、各雑誌の論文が、CA にどの程度の時間を経て現われて来ているかを、CA の巻と号、出版日別に論文数を記し、全体の何パーセントに当たるかを示す表である。

雑誌別に見て行くと、JACS (以下、すべて略字を用いる) の vol. 60, no. 1, つまり1月5日発行の雑誌論文の半数以上56%が、1ヶ月少々後の2月17日発行のものに掲載されている。残る44%のほとんども、3ヶ月後には掲載されている。これは、次のno. 2にも同じようにいえると思うが、出版者がCAと同じアメリカ化学会ということで、雑誌が1月5日に発行される以前に、抄録の準備も、かなり進んでいるのではないと思われる。部門別では、有機化学が早く、その約70%を2月17日に出し、一方、生化学の分野は比較的遅く、no. 9, つまり4月27日にまとめて出ている。無機化学は、間隔を置いて、物理化学は、no. 5 と no. 6—3月2, 16日の2回に分けて掲載されている。

JACS の vol. 86, no. 2 は、上記の場合よりも発行が2週間遅れているが、かなりまとまって掲載され、時間的なずれも、no. 7, つまり3月30日まで約2ヶ月の間に出されている。部門別にも、物理化学、無機化学がno. 5 にまとまり、有機化学が多少分散されている。

次にドイツの雑誌 *Chemische Berichte* の場合、1月3日発行の論文が、2ヶ月半後の3月16日には、その77%が掲載されている。次のソ連、フランスの雑誌の場合も同様のことがいえると思うが、やはり外国の雑誌ということで、全部が掲載されるまでには、4ヶ月少々かかるようである。部門別には、有機化学の約91%が2ヶ月半後には掲載され、一方、無機化学は、no. 6~no. 10まで分散されているが、no. 8 つまり4月13日発行のものに、比較的集中している。

次に、ソ連の雑誌の場合は、4月27日、つまり3ヶ月半で、その74%を掲載している。一応掲載が終わったと思われるのは、やはり他の外国雑誌の場合よりも遅く、6月22日発行の分で、その94%を掲載している。(ソ連の雑誌の場合、論文が部門別に分類されていないので、部門別の傾向をみる事が出来ない。)

フランスの場合、1月の何日に発行されたのか判断出来ず、1ヶ月のずれを計算に入れて考えねばならない。ソ連の場合と同じ傾向が伺える。やはり94%の掲載で、おおよそ4ヶ月から半年かかってしまうようだが、パーセンテージから見ると、やはり4~5ヶ月に集中している。部門別には、有機化学、生化学が比較的早い、無

機化学は、分散的に少し遅れて来る。

2. *Chemische Zentralblatt* (135, 1964; 136, 1965)

調査の範囲を、抄録の持つ意義といった観点から、一応1964年1年間にしたのであるが、この抄録誌の場合、出て来た数字が、大変はっきりしなかったので、この場合に限って、1965年発行の分についても、どの程度載っているかを調べ、その結果を分析した。第2表は、CZに現われた状況を示すものである。

JACS の no. 1 は、次に述べる no. 2 と同様全体の掲載率が低く、4分の1以下の24%に留まっている。CZは週刊なので、少い抄録数も、各週に1論文という風に、かなり分散されているので、全体的な傾向を見るのは難しい。No. 27, つまり論文が発表されて半年後の7月1日に、少しずつ現われ始め、約10ヶ月の間にも、全体の24%しか掲載されていないことになる。部門別には、有機化学が24%、無機化学、物理化学が3%ずつ、生化学は0%で、無機化学が早く、物理化学が遅く、その間を分散的に有機化学の論文が掲載されている。これを1965年の分で調査すると、no. 14, 4月7日発行の抄録誌に、1964年1月5日発行の雑誌の中の2論文が掲載されている。全体からみて約8%、しかも有機化学の論文が、1年3ヶ月後に出て来ているということを示している。

次にJACSの1月20日発行の分であるが、これも全体の23.4%しか掲載されていず、その率はかなり低いが、9月9日つまり約7ヶ月後に、全体の18%が掲載され、まずまずまとまっている。部門別には、やはり有機化学がまとまって、その約33%が9月9日に出ている。物理化学は、全体に分散されて、その26%を掲載、無機化学は0%である。1965年についてみると、no. 1 (1月6日)、つまり1年と約2週間後から1年9ヶ月後にかけて全体の22%が掲載されていることになる。部門別にも、かなり分散されていて、全体の傾向はみられない。

次は、同じドイツで出版されたもの同志ということになるが、掲載率22%という結果になった。しかも、半年目から、約1年近くかかって、かなり分散されている。部門別では無機化学の論文が比較的多く、その60%を掲載し、反対に有機化学が少く、その14%を掲載している。1965年についてみると、約10%が、1年3ヶ月後から1年10ヶ月後に掲載され、しかもその全部が有機化学である。

ソ連の雑誌の場合、1964年の抄録誌には1つも掲載されていず、1965年の分にさえ、11論文が、2月10日、つ

まり1年1ヶ月後から約2年後にわたって掲載されている。

フランスの雑誌は、今までで1番よい掲載率30%を示している。時間的には3ヶ月(4ヶ月)から11ヶ月(12ヶ月)後にかけて、部分的に多少のまとまりを示しながら分散的に掲載されている。部門別では、少しずつではあ

るが、全体に行きわたっている。分析化学——約29%、無機化学——約14%、有機・生化学——約35%である。これを1965年の分で調査すると、16論文、約36%が、1年1ヶ月後から1年9ヶ月後にわたって掲載され、部門別にも、平均して全般的にわたっている。

3. Referativnyi zhurnal, khimiya

第3表 RZ, Kにおける代表的化学雑誌の収録状況とそのtime lag

RZ, K		JACS (vol. 86, no. 1)		JACS (vol. 86, no. 2)		CB (vol. 97, no. 1)		ZOK (vol. 14, no. 1)		BSC de F (fascicule 1)	
(Vol.) no.	Pub. date	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%
1964 11	'64 6.10							4	5.2		
	12							2	2.6		
	13							2	2.6		
	14			1	2.7	3	6	3	3.9		
	15	1	4			3	6	2	2.6		
	16			1	2.7	8	17	7	9.1		
	17	1	4	1	2.7	6	12	4	5.2		
	18			2	5.4	1	2	8	10.4		
	20			1	2.7	2	4	2	2.6		
* {	19	4	16	1	2.7	3	6	10	13.0		
	21										
	22					2	4	3	3.9		
	23	4	16	4	10.8	2	4	4	5.2		
	24	1	4	4	10.8	1	2				
Total		11	44	15	40.5	31	63	51	66.3		

(注) 1964年度に限り、号の順番が前後し、10月に1回、11月に3回発行されている。

第3表は、ソ連の抄録誌 RZ, K に掲載されている状況を示すものである。

JACS の no. 1 の論文は、その44%が掲載され、時間的遅れも約7ヶ月から1年後に広がる。そのうちでは、10~11ヶ月後に32%が掲載され、比較的まとまっているように思える。部門別では、物理化学は0、無機化学が33%、有機化学が41%、生化学が100%である。時間的には、少しずつではあるが、やはり、有機化学の論文が早く出るようである。

JACS の no. 2 については、15論文、約41%が掲載されている。No. 1 よりも率は低い、抄録となって掲載され始めたのは、no. 1 よりも1冊分、つまり半月程早くなっている。やはり分散的ではあるが、その中でもやや集中していると思われるのは、約11ヶ月後~1

年後で、全体の約22%が掲載されている。部門別では、物理化学が37%、無機化学が33%、有機化学になると50%で、掲載期間は、やはり分散している。

次は、ドイツの *Chemische Berichte* の論文について、47論文中31論文、約63%が掲載されている。アメリカの雑誌の場合と比べても時間的遅れの差がない。全体には分散的であるが、no. 16~17 にかけて、つまり、6ヶ月~7ヶ月後にかけて、比較的集中的に29%が掲載されている。部門別にみると、無機化学が40%、有機化学が73%と、やはり有機化学の方がよい率を示し、時間的にも、no. 16~17 に集中して、一致する。

ソ連の雑誌の場合は掲載率66%で、これはドイツの雑誌よりも3%よいということだけで、ソ連同志ということからは、特筆すべき結果は生じなかった。しかし、時

化学抄録誌におけるタイム・ラグの調査

第 4 表 BS, 7 における代表的化学雑誌の収録状況とその time lag

B S, 7 (Chimie I)		J A C J (vol. 86, no. 1)		J A C S (vol. 86, no. 2)		C B (vol. 97, no. 1)		Z O K (vol. 34, no. 1)		B S C de F (fascicule 1)	
Vol. no.	Pub. date	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%	No. of articles	%
25	6	19	76			45	96			23	67.6
	7-8	1	4	27	74	1	2			6	17.6
	9										
	10							71	92		
	11-12							1	1.3		
Total		20	80	27	74	46	98	72	93.3	29	85.2

間的な遅れという点では、やはり他の国の場合よりも早く、no. 11, つまり5ヶ月後に現われている。No. 24まで分散されているが、その中では、no. 16~no. 21. つまり、8月25日から11月10日にかけて、全体の40%がまとまって掲載されていることがわかる。

後で述べるが、フランスの雑誌の論文は1つも掲載されていない。

4. *Bulletin signalétique*, 7. *Chimie I*

前述のように、この抄録誌は、発行月日が明記されていず、月刊ということと、ナンバーとから推定することにする。従って、長ければ1ヶ月の誤差が生じる可能性があるということを考えた上で、比較分析しなければならない。

JACS の場合、掲載率は、各々、80%, 74%である。時間的には少々遅れ、5(6)ヶ月から7(8)ヶ月後に出ているが、no. 1 の場合、その76%が no. 6 にかなりまとまって掲載されている。部門別にも、(no. 2 の場合は、やはり少々遅れて no. 7-8 にその全部が載るといように)、no. 1 と no. 2 の時間的なずれは、同様に現われているが、物理化学、無機化学、有機化学、生化学、と各々まとまっている。No. 1 の場合、それらの率は各々、67%, 67%, 82%, 100% で、no. 2 の場合は、68%, 67%, 83%で、生化学は分類されていない。

ドイツのCBの場合、47論文中、46論文が掲載され、98%の掲載率である。時間的なずれは、アメリカの雑誌と同じ程度で、やはり5(6)ヶ月後にそのほとんどが掲載され、no. 7-8 では全体の2%しか掲載されていない。部門別には、無機化学が90%、有機化学が100%である。

ソ連の雑誌の場合、掲載率が約93%で、他の外国雑誌に比べると、やはり収録がずっと遅れている。No. 10,

すなわち9ヶ月から10ヶ月後に、その92%を掲載、no. 11-12, 約1年後には、全体の1.3%が掲載されていることがわかる。

最後は、フランスで出版されたもの同志であるが、掲載率は85%で、ドイツ、ソ連の雑誌について三番目ということである。やはりその大部分が no. 6 に現われているが、アメリカ、ドイツの雑誌の場合に比べると、no. 7-8 に出ているのが17.6%と、少し多くなっているのが認められる。部門別には、分析化学が100%、無機化学が71%、有機・生化学が85%である。

B. 雑誌別による分析

Aでは抄録誌からみて、各雑誌の論文がどの程度の時間的経過を経て掲載されているかについて分析して来たが、ここでは、雑誌の論文からみて、各抄録誌が、どの程度の掲載率と time lag を示しているかを、グラフに現わして分析してみたいと思う。

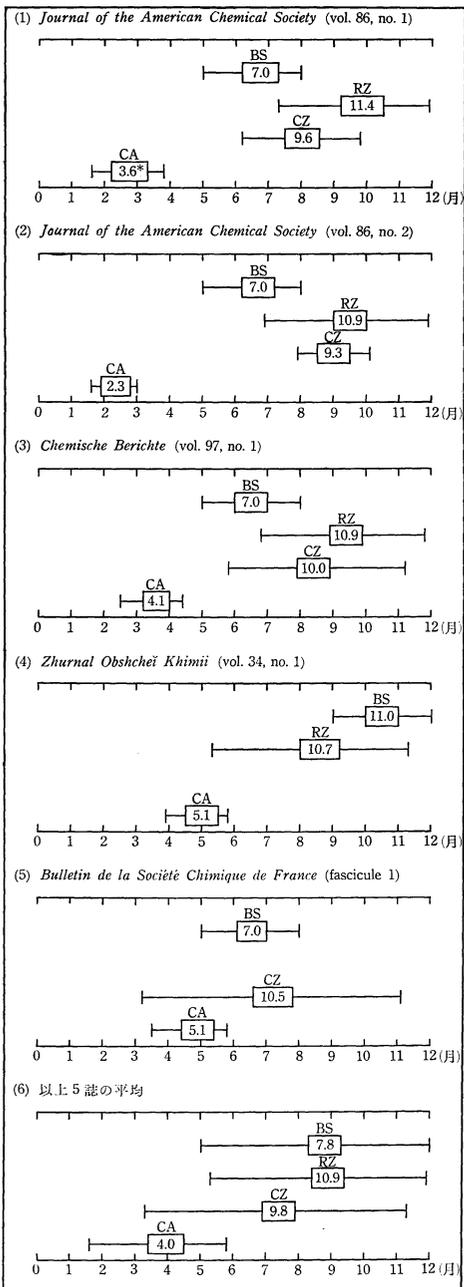
1. 掲載率の比較

第 5 表 代表的化学雑誌の被抄録率

	CA	CZ	RZ, K	BS, 7	平均
JACS no. 1	100%	24%	44%	80%	62%
no. 2	100	24	41	74	60
CB	100	23	65	98	72
BSCdeF	94	30	0	85	52
ZO, K	94	0	66	93	64
平均	97.6	20.2	43.2	86	62

(注) CZ の場合、1965年に掲載された分はふくまれていない。

第 6 表 化学雑誌別に見た抄録誌の time lag



(注) □内の数字は平均した月数を示すもの
 (参照) Orr, Richard H. and Crouse, Eleanor M. "Second publication in Cardiovascular, endocrine and psychopharmacologic research," *American documentation*, vol 13, no. 2, 1962, p. 197-203.

第 5 表は、雑誌からみた抄録誌の掲載状況をパーセンテージで現わしたものである。例えば、アメリカの雑誌 JACS は no. 1, no. 2 とともに、CA にはその論文全部が掲載されているということである。この表によれば、フランスの雑誌はソ連の抄録誌に、またソ連の雑誌はドイツの抄録誌に、全く掲載されていないことになる。

2. Time lag の比較

A では、time lag についても、大ざっぱな分析しか出来なかったが、ここではもう少し詳しく分析してみたいと思う。第 6 表は、雑誌別に time lag の平均値を示し、(6) で全体の平均を出した。この数字は、各雑誌が発行されたその翌日から、抄録が掲載され終ったと思われる日（この日付は、必ずしも確かとはいえないが、一応 1964 年 12 月 31 日までに掲載されたものに制限して）までの日数を数え、それを 1 月平均で割ったものである。

この場合も、やはり、*Zhurnal Obshchei, khimii* と *Chemisches Zentralblatt* の関係、また *Bulletin de la Société chimique de France* と *Referativnyi zhurnal, khimiya* の関係は出せない。前者の場合は、2 年目(1965 年)を計算に入れれば、time lag を出せないことはないが、この場合は、他の雑誌による結果も出ているので省略することにした。後者の場合は資料が揃っていないこともあって、調査出来なかった。

C. 全体の比較検討

第 5 表と第 6 表で示したが、各抄録誌の平均した掲載率と time lag について考えてみる。

CA	97.6%	4 ヶ月
CZ	20.2%	9.8ヶ月
RZ	43.2%	10.9ヶ月
BS	86.0%	7.8ヶ月

各抄録誌 (CA を除いて) について、具体的に time lag や coverage について比較している参考文献がないので、この調査によるこれらの数値が、どの程度まで信頼出来るかは、疑問ではあるが、一応この数値によってまとめることにする。

今までの分析から、先ずいえることは、CA のサービスの抜群の良さで、ある意味ではこの調査は、CA の良さの立証に終わってしまうかも知れない。CA の速報性について、割付け、抄録、記録校閲、編集、印刷の経路を通り、最近では 3 ヶ月近くで刊行されるといわれている。雑誌の選定や、調査の tools としての雑誌数の是非などによって、大分違って来るとは思うが、この調査では 4 ヶ月という平均値を得た。

CZについては、CAとその名声を分かち合っているとされる程、その世界的な権威はゆるぎないものとされていたが、この数値によれば、大戦後の活躍はさほどのこととは思われなくなる。

反対に、それ程の活躍が認められていないフランスのBSについては、CAの次ぎに、掲載率、time lagの点で、最も平均した、安定した数字が示された。

ソ連のRZは、ドイツとソ連の雑誌については、適当な数字を示していると思われるが、フランスの雑誌の論文が1つも抄録されていない。しかし、フランスの雑誌が、RZにまったく索引されていないわけではなく、この1964年の抄録誌には、ざっと見たところ、1963年に発行された雑誌の論文が掲載されているようであり、2年近くの開きがあるものと思われる。CAの場合、特にソ連の化学雑誌論文の収録範囲は、RZ、Kと同じ程度に完璧に、時にはそれ以上に完全に、しかもより早く現われる場合があるといわれるが、この調査では、それがはっきり現われている。つまり、1月14日発行のソ連の雑誌の論文はCAに94%、RZに66%が掲載され、CAには4月27日、RZには6月10日に、各々掲載され始めている。

雑誌別では、ドイツの *Chemische Berichte* が、各抄録誌に平均して72%が掲載されている。これは、雑誌の重要度をある程度示すものと思われる。第5表で示してあるが、JACSはno. 1が62%、no. 2が60%、フランスの雑誌が52%、ソ連の雑誌が64%であり、ドイツの場合、雑誌と抄録誌が全く反対の数字を示しているのが興味深い。

(図書館学科 15 期生)

[注] 本稿は昭和41年度卒業論文「化学抄録誌の比較考察——Time lagを中心に——」の一部である。

- 1) Crane, E. J., *et al.* *A guide to the literature of chemistry*, 2d ed. New York, Wiley, 1957. p. 81.
- 2) *Ibid.*, p. 83.
- 3) 中沢浩一. 有機化学文献の調べ方, 第2改稿版. 広川書店, 1960. p. 78-9.
- 4) Graves, Eileen C. *Ulrich's periodicals directory*, 10th ed. New York, Bowker, 1963. p. 123.
- 5) Crane, *op. cit.*, p. 137.
- 6) Walford, A. J., *ed.* *Guide to reference material*, 2d ed. London, Library Association, 1966. p. 87.
- 7) 中沢, *op. cit.*, p. 15-21.
- 8) Crane, E. J. The use of chemical literature. <American Chemical Society. *Searching the chemical literature*. Washington, D. C., 1961> p. 39.
- 9) 稲葉安養子. “2次資料の利用法,” *情報管理*, vol. 6, no. 7, 1963. 7, p. 3-14.
- 10) Walford, *loc. cit.*
- 11) 中沢, *op. cit.*, p. 21-2.
- 12) Mellon, M. G. *Chemical publications*, 4th ed. New York, McGraw-Hill, [1965] p. 100-4.
- 13) 稲葉, *loc. cit.*
- 14) Walford, *op. cit.*, p. 90.
- 15) Mellon, *op. cit.*, p. 106;
- 16) 稲葉, *loc. cit.*
- 17) 高橋達郎, 他. 科学文献. 南江堂, 1966. p. 118.
- 18) Walford, *op. cit.*, p. 86.